

磐田市 桶ヶ谷沼 ビジターセンター

第189号 2020年2月15日 だより



開館時間：午前9時～午後5時（月曜日 休館）

住所：〒438-0016 磐田市岩井315番地

電話：0538-39-3022 FAX：0538-39-3023

E-mail：okegaya-vc@city.iwata.lg.jp



春を待つ菜の花畑



今シーズンの冬は全国的に暖冬で桶ヶ谷沼でも冬とは思えないような暖かな日が続いています。また、2月4日は立春で「春が立つ」と書く字のとおり暦こよみの上では、この日から春になります。とはいうものの、桶ヶ谷沼の観察路を歩いてみてもまだ春の兆きざしを思わせる光景に出会うことはありません。

このような季節の中で、ビジターセンターに隣接する菜の花畑だけは、すでに青々した葉が育ち春を感じます。

昨年は3月下旬には一面に菜の花が開花し見頃となりましたが、今年は暖冬の影響で早まるかもしれません。雨の日が多くなり、気温が上昇してくると、草丈くさたけが一気に伸びて開花が始まります。それに合わせてモンシロチョウ、ベニシジミ、キタテハ、ハナアブ、ミツバチなど多くの昆虫が見られるようになります。



なたねあがら
菜種油

菜の花畑では「菜種油」を採取するために菜の花を栽培しています。菜種とは菜の花（アブラナ）の種子のことで、古来より油を採るための植物として、また、野菜として栽培されてきました。日本では葉物野菜として食べられ、江戸時代には行燈あんどんや食用の油を採るために菜種が広く栽培されるようになりました。

* 万葉集に詠まれた植物 その11 *



春の野に 霧立ち渡り降る雪と
人の見るまで 梅の花散る

つくしのみちのさくわんでんじのまかみ
筑前目田氏真上 (巻一-34)

歌意：春に、一面に霧が立ちこめ、その中で降る雪かと思う
ほどに白い梅の花が散ってくる

大宰府長官の^{おおとものたびと}大伴旅人が^{ていたく}邸宅で^{うめのはなのうたげ}梅花の宴を開いた時の歌 32首の中の1首。梅は中国の詩文などにはかなり古くから現れていました。日本には西暦650年～700年頃に中国から伝来し、中国の^{えいさよう}影響を受けた大伴旅人など奈良時代の文化人に愛されて、奈良の都や大宰府、地方の^{こくが}国府などに植えられたものと思われます。【参考：万葉植物事典（北隆館）】

桶ヶ谷沼北側の野鳥観察小屋の近くにもウメの木があり、花が咲き始めるとハナアブやミツバチだけでなく、メジロなどの野鳥も^{みつ}蜜を吸いに集まってきます。

* 1月のイベント報告 *

野鳥観察会 1月19日(日) 9:30～

沼で一番多く見られるカモの仲間は夜行性であり、夜間にエサを食べて昼間に^{すいみん}睡眠をとります。外敵から身を守るため、群れで固まりながら10数秒間位寝て、目覚めることを繰り返しています。

(講師：北川 捷康さん)



自然とのふれ合いを

※どなたでも参加でき、参加費は無料です。申し込みは直接または電話、FAXでビジターセンターへどうぞ

いきもの研究発表会

3月22日(日) 9:30～11:30 (受付 9:00～)

場所：桶ヶ谷沼ビジターセンター 視聴覚室

桶ヶ谷沼のトンボや植物などを研究・調査している研究者による研究発表を行います。

※ベッコウトンボ調査会

4月19日(日)と4月29日(水・祝日)に予定しています。

みなさんのご参加をお待ちしています。

